

第4回トキの野生復帰に向けた川づくりアドバイザー会議概要

- 開催日時：平成28年7月26日(火) 13:00～16:40
- 開催場所：ネスパス表参道・新潟館（東京都渋谷区神宮前4-11-7）
- 出席者（学識経験者3名）

氏名	所属	専門分野
島谷 幸宏	九州大学大学院 工学研究院 教授	河川工学
◎関島 恒夫	新潟大学農学部 生産環境科学科 教授	生態学(動物行動)
陸 旻皎	長岡技術科学大学 環境・建設系 教授	河川工学

※五十音順、◎は座長

■議事内容

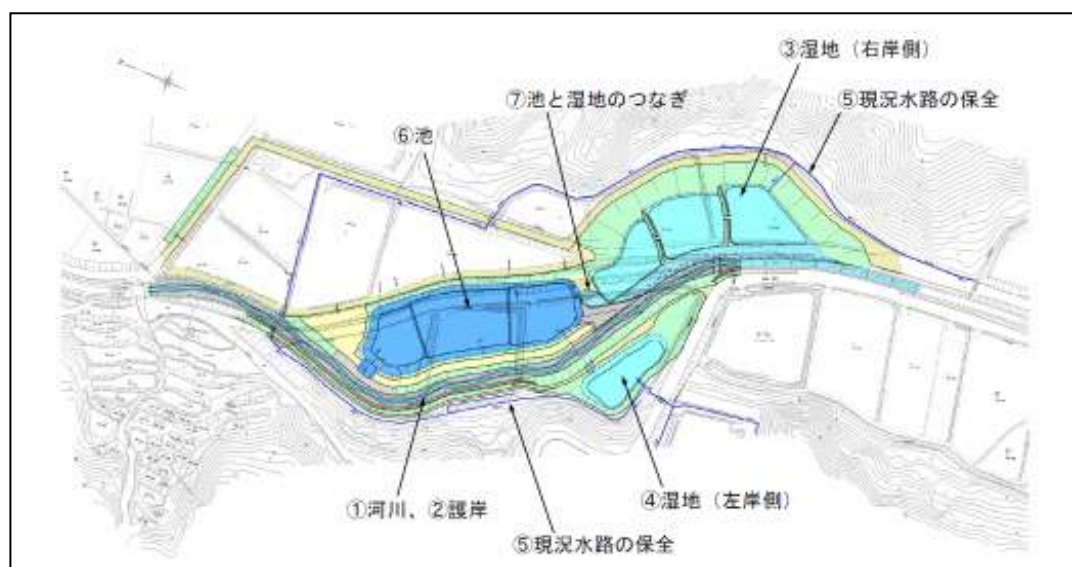
- (1) これまでの振り返り
- (2) 地域住民等の意見を踏まえた
天王川中流部計画について
- (3) 今後の予定について



■会議の概要

今回のアドバイザー会議では、これまでの振り返りをしたうえで、地域住民や各種団体の方々から検討・作成いただいた、「天王川の自然再生計画修正（案）」について、検討・助言をいただきました。（欠席されたアドバイザーにも個別に事前説明を行い、あらかじめご意見をいただきました。）

■修正(案)：全体平面図



■修正(案):平面配置の主要ポイント

項目	主要ポイント
① 河川	・生物多様性の観点から山付きとした。その際、上流法線の湾曲部において川の流れが直接湿地や池に向かわないよう巨石を設置
② 護岸	・流速や現地状況に応じ4種類の護岸形式を配置 (空石積護岸、石張護岸、浸食防止シート、土羽護岸)
③ 湿地【右岸側】	・ドジョウの生態等を考慮し、池の上流側に湿地を配置 ・トキが餌場として利用できる水深20cm以下の湿地を創出 ・水深が変化してもトキの餌場を確保できるよう、多様な水深を有する湿地を創出 ・湿地全体に氾濫頻度が多くなるよう、棚田形状を採用 ・年に20回程度河川からの流入があるような形状とし、氾濫原性の多様な湿地環境を確保
④ 湿地【左岸側】	・湧水を水源とする安定的な湿地環境を確保
⑤ 現況水路の保全	・両生類の産卵環境を保全 ・トキの餌場不足となる冬季の湿地水面確保
⑥ 池	・多様な生物の生息・成育環境を考慮し、様々な水深を確保できる池の形状を設定 ・土砂の捕捉効果を考慮し、できるだけ面積を大きく配置 ・池の入口を低くし、小流量でも浮遊砂を捕捉可能とする
⑦ 池と湿地のつなぎ	・池と湿地の連続性を確保し、ドジョウ等水生生物の移動が可能となるクリーク状の水路

■アドバイザーから出された主なご意見

【河川】

- ◆下流側法線を山付き部にすることは、ホタルなど生物多様性の観点からもよい。
- ◆上流側は流路を固定せずに右岸側の湿地と一体として川が自由に動くようにするとよい。
- ◆川の流れを制御するための巨石を配置する場合は必要なところに最小限とするべき。巨石に関わることなく再検討すること。
- ◆無名橋上流のV字形底張コン、既設護岸は基礎コンも含めて撤去した方がよい。硬いものを残すと、その脇が侵食される。
- ◆左岸側(農道側)を石積みにして洗掘防止のために水際に捨石等を置き、低水路部は自由に動くようにした方がよい。
- ◆氾濫回数を年間20~30回と想定した際に、河床と湿地の高低差が5cmというのは高低差として意味がない。右岸側湿地に流入する区間は、低水路断面を一部狭くするなど工夫して30cm程度の高低差を確保できないか検討すること。

【護岸】

- ◆池の出入り口など、守るべきところには石積みなどの護岸を設けるべき。
- ◆中堤が壊れると池の機能が失われるため、石積み、石張りなど何か対策が必要。
- ◆流速が2m/sを超えるところには何らかの対応が必要だが浸食防止シートはNG。
そういうところは石積みとすべき。

【湿地】

- ◆河川の縦横断方向に湿地深さを変化させるのはよい。
- ◆生物多様性の観点から餌場となる湿地底の勾配は1/50程度よりも緩やかな方がよく、所々に深みを設けた方がよい。
- ◆右岸側湿地と管理用通路の間の法面は、なるべく潰し湿地を広くとるべきである。
- ◆その際、農業用水路から水の供給があるので、法面部分に1段高い湿地を設けることも考えられる。(棚田のような形状)
- ◆親水性の目的で5割の法勾配とするのであれば、全体ではなく一部を残すとよい。

【池】

- ◆河川と池の分派量を数値的な根拠を付けて示して欲しい。次回アドバイザリー会議では簡易的な方法でも良いので分派特性が分かるようにし、池への流れの不確実性をなるべく排除すること。
- ◆分派の計算は、池からの流出部の検討が重要である。
- ◆排水口を河川に直角に交わせるのではなく、河川の流れに沿った形とすべき。
- ◆池の維持管理(浚渫)は上流側からもできるように、重機のアクセス性、作業スペースの確保に留意すること。

【池と湿地のつなぎ】

- ◆素掘り水路形状だと土砂が堆積するので、土砂撤去できるような管理スペースが必要となる。
- ◆クリークをドレーンとすることも有効。

【全体について】

- ◆整備当初の形を永遠と維持しようとしても難しい。全体の中で保持して行くべき部分(災害復旧の対象とすべき部分)と、形が変わっていくことを許容できる部分をしっかりと決めること。

■今後の予定について

- ◇アドバイザーからいただいたご意見を座談会に報告し、地域住民の皆さんとも話し合いを行ったうえで、整備の方向性を決定することとしました。
- ◇次回アドバイザリー会議は、今回のご意見等を踏まえた詳細設計を行い、概ねの設計案ができた時点で、開催することとしました。

問い合わせ先 新潟県佐渡地域振興局地域整備部 担当：計画調整課 水倉、高澤
TEL:0259-74-4040 FAX:0259-74-2048 E-mail:takasawa.hiroshi@pref.niigata.lg.jp